



# 電車どおり

平成21年1月26日発行 第41号

函館中央病院

発行責任者 橋本友幸



日本医療機能評価機構認定施設、総合周産期母子医療センター

**基本方針**  
 私たちは、患者さまの権利とプライバシーを尊重した医療を提供します。  
 私たちは、チーム医療を実践し、患者さまに応じた医療を提供します。  
 私たちは、地域の医療機関との連携を強化し、医療環境の発展と充実を図ります。  
 私たちは、日々研鑽し、最高で高次の医療を提供します。  
 私たちは、一人一人が幸せで働きがいのある病院を目指します。

## 患者さまの声より



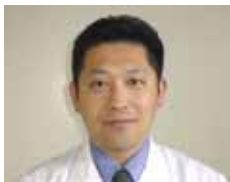
当院では患者さまへのサービス向上の為『意見箱』を院内に設置し、患者さまや来院された方から職員に対するご意見や施設に関するご要望などたくさんのお言葉をいただいております。当院には「患者サービス委員会」があり、『意見箱』でいただいた内容について検討し、サービス向上に向けての活動を行っております。また、看護職員で構成する「渉外委員会」では病院付近の花壇づくりに取り組み、居心地の良い病院づくりに取り組んでおります。

これからも必要とされる点については、随時改善に向けて取り組んでいきますので、職員に直接話していただくか『意見箱』をご利用いただき、ご協力いただければ幸いです。

## 特集

### 骨粗鬆症と骨折

～すべりやすい  
雪道にはご用心～



脊椎センター医師：戸川大輔

年が明けてようやく雪が積もりましたね。みなさんも転ばないよう歩くのにかなり気を使っていることと思います。今日は皆さんも聞きなれてはいるけどいまひとつ実態がわかりにくい『骨粗鬆症』についてのお話です。

骨粗鬆症にもいくつかのタイプがあるのですが、圧倒的に多いのは女性の閉経後骨粗鬆症です。ただし男性の皆さん、骨粗鬆症には遺伝要素や生活習慣（食事、運動、喫煙、アルコールなど）が原因となる場合もあるので油断は禁物です。そのほか、他の病気のために長期にわたってステロイドのお薬を服用する場合も骨粗鬆症になりやすいので、定期的な骨の検査が必要です。

骨は大人になってからも、つくられたり(骨形成)こわされたり(骨吸収)しながらある一定の形が保たれています。女性の閉経後はホルモンのバランスが変化するため、骨がこわされる量やスピードに、骨をつくる側が追いついてこれないので、吸収された骨の部分を埋めきれず、骨の密度が減少します。さらに細かく骨を見てみると骨の網目構造の連続性が少なかったり、断たれていたりするので、強度が弱くなってしまっています(図1)。さらに加齢が進むとカルシウムやビタミンDが欠乏し、その結果として副甲状腺という部分から出るホルモ

### 中央・病院・前

雪が積もりようやく冬景色となりました。年末に多く見られたインフルエンザは、



最近やっと少なくなってきましたが、まだまだ油断出来ません。学校では新学期が始まり、集団感染の可能性があります。手洗い、うがいなどの予防策をとって下さい。受験生の皆さんは大切な時期ですので、部屋を暖かくし、乾燥を防ぐ為に加湿器を使うのも良いと思います。

ンが過剰に作用して骨の吸収が早まったりしてしまいます。ちなみに男性の性ホルモン(エストロゲンやアンドロゲン)も骨粗鬆症に関係しているといわれています。

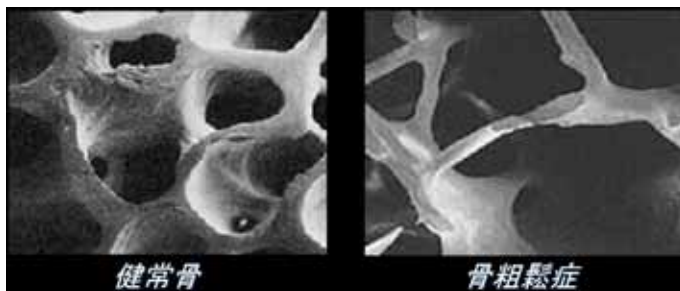


図1 骨粗鬆症になると骨の構造がもろくなって骨折しやすくなってしまいます・・・

『骨粗鬆症』って病気なんですか？と思われる方の気持ちはよくわかります。なぜなら目立った症状がないことが多いんです。ただし、骨粗鬆症が進行していると、ほんのちょっとした動作、例えば背伸びをして上にあるものをとろうとしたとか、転びそうになって踏ん張ったとかで背骨を『骨折』したり、若い頃ならたいしたことのない転び方でも足の付け根の骨を骨折したりすることがあるんです。雪道で転んで手をついたときに、手首を骨折したという人も少なくありません。頑固な背中痛み、腰痛などの原因がレントゲンではわかりにくかった背骨の骨折だったという場合もあります。

気になる人は是非整形外科外来を受診することをお勧めします。危険因子にはどういったものがあるのかという話をしたり生活習慣のアドバイスもできますし、骨密度の計測もできます。その結果によっては骨量の増加や骨折の予防に有効な、骨の吸収をおさえるお薬もお勧めします。

骨粗鬆症は自覚できる症状のない病気なので、骨折して初めて治療が始まる場合が多いんです。最近はどうな病気も『予防』が重要だといわれています。転びやすいこの季節、骨を折って痛い思いをするまえに一度相談してみたいはいかがでしょうか？

整形外科(脊椎センター)医師：戸川大輔



## 薬の知識

### ～インスリンの歴史～



薬剤師：田畑美智子

みなさんは、インスリンという言葉を知っていますか？  
インスリンは、人の膵臓から分泌されている「血糖を下げるホルモン」として知られていますが、最近急激に増加している「糖尿病」の治療薬として昔から使われてきました。現在、日本では非常に純度の高い「人間（ヒト）」のインスリンが安価に手に入るようになりましたが、インスリンの発見から、現在のインスリン注射になるまでには、様々な道のりがありました。今回は、その一部を紹介したいと思います。

糖尿病は古くは3500年前のエジプトのパピルスに記述があり、日本では平安時代の藤原道長が糖尿病であったという記録が残っています。糖尿病は近世まで、死に至る恐ろしい病気と言われていました。



1921年に整形外科医のバンティングと医学生のパストが、「イヌの膵臓を取り出すと、糖尿病になる」という論文をヒントに、イヌの膵臓からインスリンを抽出しました。その後、1922年にウシの膵臓からインスリンを抽出し、糖尿病の少年へ投与したところ、劇的な回復が見られ、インスリンの効果を証明したのです。これは医学史上最大の発見の一つとされ、ノーベル賞を受賞しています。

当時は、ウシやブタの膵臓からインスリンを抽出していました。1頭からほんの少ししか取れないため、かなり高価な医薬品でした。日本においては、それ以上に貴重な医薬品として扱われていたようですが、戦争中は、海外からのインスリン輸入が途絶えた時期もありました。そこでなんとマグロからインスリン抽出し使用していた時期もあります。マグロから抽出したインスリンは、「イスジリン」と呼ばれ、販売されていました。その後、クジラから抽出したものも販売され、

1960年代後半まで使われていました。ただ、ヒトのインスリンとはかなり構造が異なっていた為、アレルギーなどの副作用も多かったようです。やがて1982年に、ヒトのインスリンを人工的に作る事ができるようになり、副作用も大幅に減りました。



動物から抽出した膵臓の山  
当時のインスリン注射1本分

私たちの体の中にもいる大腸菌や酵母菌に、ヒトインスリンの遺伝子を入れると、大腸菌や酵母菌がせっせとヒトのインスリンを作ってくれます。

このように、インスリンには約90年の歴史があります。動物から抽出する時代から、遺伝子組換え技術により製造する時代へ、そして、現在は、より自然な血糖の状態を維持出来るようにするためにインスリンの構造を化学的に組み替える時代まで来ています。

さらに、海外では、インスリンの吸入薬も開発されており、これからもますます進化していく事でしょう。

## 「病院ボランティア」募集中！

当院では『病院ボランティア』を結成してから2年が経ちました。病院で活動するボランティアさんは主に、患者さまを誘導したり、問診票の記入方法を説明したりしています。オレンジ色のエプロン姿の方達です。結成当初から現在もボランティアとして活動してくださっている方もおり、大変ありがたい存在です。これまで、大学の長期休暇を利用してボランティアをしてくれた方や、会社の貴重なお休みの日を利用してボランティアをしてくれた方など、多くの方々に支えられてきました。

今後も『病院ボランティア』を継続して取り組んでいきますので、「やってみたい」と、ご興味のある方は是非ご連絡下さい。

お問い合わせ連絡先

函館中央病院地域医療連携室 電話 0138-55-3421(直通)

## 新任医師の紹介



形成外科医師：高見麻衣子

平成21年1月1日付で当院形成外科に高見麻衣子医師が赴任致しました。診療は火曜日の午後と金曜日の午後です。どうぞよろしくお願い致します。

## 今月の笑顔



昨年12月より薬剤部から調度課へ配属となりました。

慣れない事ばかりで大変ですが、毎日楽しく仕事できるよう、笑顔いっぱい頑張りますのでよろしくお願い致します。

調度課事務員：小林えり

## 人間ドック 特定健診 婦人科検診 随時受付(完全予約制)！！

お問い合わせ：健康管理センター TEL0138-52-1231

### 【患者さまの権利】

1. 安全で良質の医療を平等に受ける権利
2. 十分な説明を受ける権利
3. 自らが受ける医療に参加し自己決定する権利
4. 自らが受けている医療について知る権利
5. 個人のプライバシーが守られる



『電車どおり』では、皆さまのお役に立ちそうな情報をどんどん掲載していく予定です。記事に対するご要望などがございましたら、広報誌担当事務局までお問い合わせ下さい。

連絡先： 0138-52-1231(内線261)  
次号発行予定は2月25日です。お楽しみに！！